妙安寺だより　305号

暦　の　話　①　　六曜について

誰もが一応気にする、大安・友引・仏滅といった「こよみ」の中の六曜について考えて見ましょう。
この六曜は、俗に「諸葛孔明六壬時課（しょかつこうめいろくじんときのうらない）」などといわれ、中国の蜀の国の名将として有名な「諸葛孔明（しょかつこうめい）」が発明したといわれていますが、真偽はさだかではありません。
この六曜の六という数字は、十二の半分、すなわち十二進法の数で、もとは時間の吉凶判断に用いられました。
足利時代に渡来した頃には、大安・留連・速喜・赤口・小吉・空亡であったが、江戸時代の寛政の頃になると、泰吉・流連・則吉・赤口・周吉・虚亡に変わり、さらに名称と順序が変化して、現在の先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤口になってしまった。
日本で、この六曜が一般大衆に盛んに用いられるようになったのは、天保の頃からです。
「火曜日には火を使うな」「水曜日には水を使うな」の類（たぐい）である。
六曜の順序は、旧暦の朔（一日）を起点としています。
（旧暦の１月日と７月１日は先勝。２月１日と８月１日は友引。３月１日と９月１日は先負。４月１日と１０月１日は仏滅。５月１日と１１月１日は大安。６月１日と１２月１日は赤口から順次始まります）
六曜の読み方と、大体の意味を述べてみますと

先　勝　（せんかち・さきかち・せんしょう）＝もとの「速喜」を「速ければ喜ぶ」と解釈して、「先んずれば勝つ」
すなわち、「先勝」と改めたのではないかともいわれている。
急ぐ願いごとは良く、また願いごとは急ぐほうが良い。

友　引（ともびき・ゆういん）＝もとの「留連」から、音が訛って「ゆういん」となり、さらに「ともびき」にな
ったと解釈される。
元来は、留連、すなわち進みもせず引きもせずで、陰陽いずれとも勝負のつかない日の意味。
現在は、「ともびき」と解釈し、友を引くからというので、葬儀はとり行わないが法要は差し支えない。

先　負（せんぷ・せんぶ・せんまけ・さきまけ）＝「先勝」と逆に解釈されている。
すなわち、先んずれば負けで
ある。従って、何事も出しゃばらずに、静かにしていることが良いという。

仏　滅（ぶつめつ）＝「仏」という字があるが、歴史上からも明らかなように、仏教とは関係はない。
大凶日で、何事も食い違うといい、この日に病気にかかると長患いになるといわれている。
物滅の意味から、商取引きなどに損をするといわれ、凶の日になり、法要などには、吉とする解釈もあります。

大　安（たいあん・だいあん）＝万事大吉日で、成功しないことはないといわれる。大安に結婚式を行なうことは、友引に葬式を行なわないことと共に、現在、最も広く受け入れられている。
二人の人が、まったく正反対のことをこの日に行なったらどうなるのか。
迷信に過ぎないことは容易に理解できる。

赤　口（しゃっく・しゃっこう・じゃっく・じゃっこう）＝だいたい凶であるが、午前９時から午後３時までは吉とも言う。
「火の元に気をつけよ」というのは、文字からきたイメージ。
祝い事は絶対いけないというのは、宴席が午後３時過ぎまで及ぶためである。
「赤口」というのは、羅刹神（らせつしん）という恐ろしげな大鬼のことである。

※平成22年度の「地涌の声」の功徳主を募集しています。（1月　5，000円）
希望の月と5，000円を添えて、お申し込みください。希望の月が重複した場合は、先着順になります。